

空き家の状況

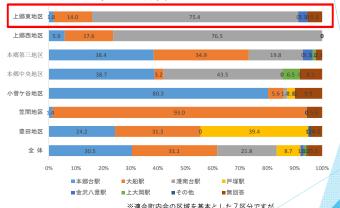
平成25年度 住宅・土地統計調査

| | 総住宅数 | 空き家数 | 空き家率 |
|-----|--------------------|------------------|---------------|
| 全国 | 60,629千戸 | 8,196 千戸 | 13.5 % |
| 横浜市 | 1,764,870 戸 | 178,050 戸 | 10.1% |
| 栄区 | 51,330戸 | 3,320 戸 | 6.5 % |



利用駅

問8. あなたが通勤・通学に利用する駅はどこですか。 (平成22年区民意識調査)



※連合町内会の区域を基本とした7区分ですが、 町界で区分しているため、連合町内会のエリアとは一部異なっている部分があります。

庄戸小学校

平成26年度 学級数及び児童数(平成26年度市立学校現況)

| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 個別 支援 学級 | 合計 |
|-----|----|----|----|----|----|----|----------------|-----|
| 学級数 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 14 |
| 児童数 | 57 | 57 | 56 | 64 | 57 | 72 | 5 | 368 |

学級数及び児童数 推計(平成27年度義務教育人口推計表)

| | | | | Α | | | |
|-----|-------------|-------------|-------------|-----|-------------|-------------|-----|
| | 27 年 | 28 年 | 29 年 | 30年 | 31 年 | 32 年 | 33年 |
| 学級数 | 12 | 12 | 11 | 11 | 10 | 10 | 9 |
| 児童数 | 332 | 335 | 305 | 301 | 278 | 262 | 252 |

上郷中学校

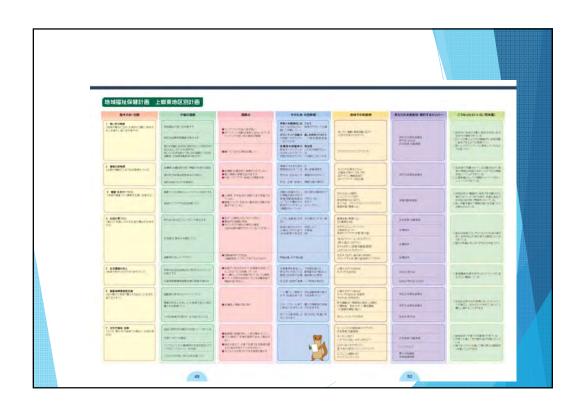
平成26年度 学級数及び生徒数(平成26年度市立学校現況)

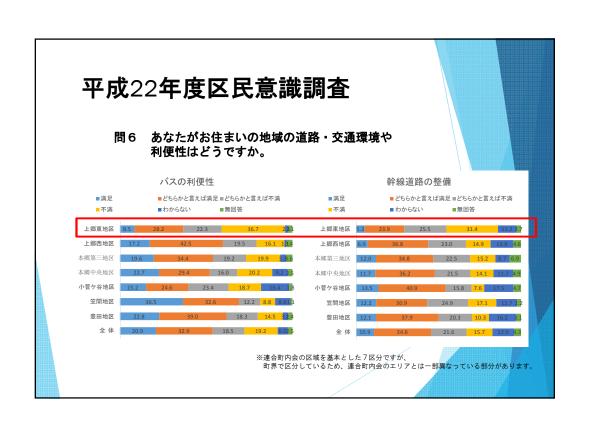
| | 1年 | 2年 | 3年 | 個別支援 学級 | 合計 |
|-----|----|----|----|------------|-----|
| 学級数 | 2 | 3 | 2 | 2 | 9 |
| 生徒数 | 49 | 83 | 52 | 5 | 189 |

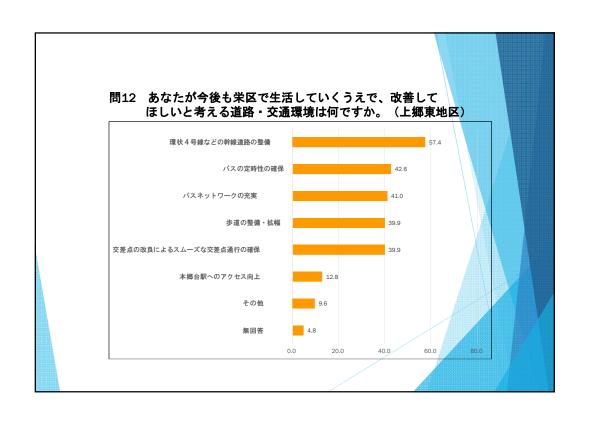
学級数及び生徒数 推計(平成27年度義務教育人口推計表)

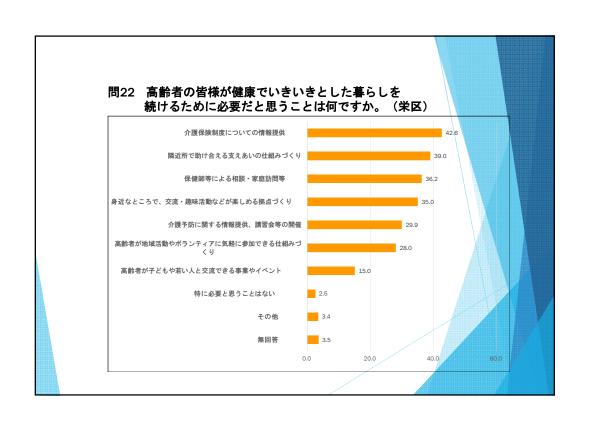
| | 27 年 | 28年 | 29年 | 30年 | 31年 | 32年 | 33 年 |
|-----|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|-------------|
| 学級数 | 14 | 14 | 15 | 14 | 13 | 12 | 12 |
| 生徒数 | 480 | 482 | 507 | 488 | 473 | 446 | 436 |

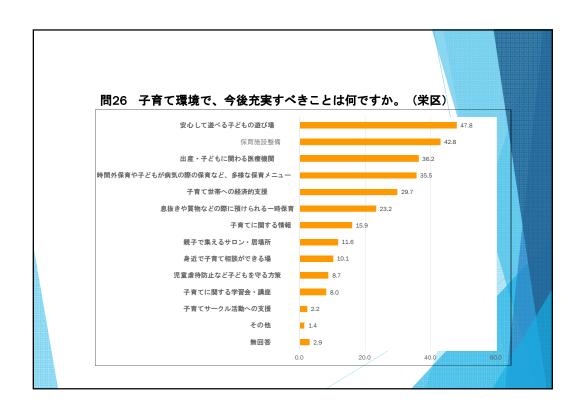












【参考資料】

持続可能な住宅地モデルプロジェクト

住み慣れた身近な地域で、誰もが安心して暮らし続けられるように、生活圏の拠点となる駅周辺等に、周辺住民の生活を支えるために必要な機能を集積し、郊外の住宅地の住環境を維持し拠点駅との交通を確保するなど、市民生活を支えるコンパクトな住宅地の形成を進めています。

- ・青葉区たまプラーザ駅北側地区
- ·磯子区洋光台周辺地域
- 緑区十日市場周辺地域
- 相鉄いずみ野線沿線地域

持続可能な住宅地モデルプロジェクト

青葉区たまプラーザ駅北側地区

平成23年6月から、東急電鉄と「郊外住宅地のあり方研究会」を開催し、有識者による講演会やディスカッションなどを行い課題解決のための討議を行ってきました。

この経過を踏まえ、平成24年4月に田園都市線沿線における「次世代郊外まちづくり」の推進に関する包括的な協定を締結し、6月にモデル地区を「青葉区たまプラーザ駅北側地区(青葉区美しが丘一丁目~三丁目)に決定しました。

平成24年10月から行った、モデル地区でのワークショップなどの市民参加の場、学術や地域関係者、民間事業者が参加した各種の暮らしのインフラ検討部会での検討を踏まえ、平成25年6月に、「次世代郊外まちづくり基本構想2013一東急田園都市線沿線モデル地区におけるまちづくりビジョンー」を策定しました。

青葉区たまプラーザ駅北側地区



磯子区洋光台周辺地域

平成22年11月に、神奈川県と県下3政令市で設置した「多世代近居支援のまちづくり研究会」での議論をもとに、具体的な取組を実施するモデル地区として選 定しました。

DC都市機構との連携を図り、平成24年5月から地域住民との「洋光台エリア会議」を開催しています。 UR都市機構は「URルネッサンスin洋光台」として団地の再生やエリアマネジメ

ントに係る取組を開始しました。



緑区十日市場町周辺地域

環境未来都市計画の主要な事業「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」の取組の一つとして、民間活力の導入や市有地の有効活用等により、十日市場駅勢圏にある周辺大規模住宅団地等を含めた「超高齢化や環境に配慮した持続可能な住宅地モデルの構築」を推進します。





相鉄いずみ野線沿線地域

平成22年10月から、相鉄ホールディングス株式会社と「相鉄線沿線 次代のまちづくり勉強会」を行ってきました。

この経過を踏まえ、平成25年4月10日に相鉄いずみ野線沿線の次代のまちづくりの推進に関する協定を締結しました。

平成25年6月5日には、第1回連絡協議会を開催しました。今後は、研究会を開催し、市民参加のイベントも企画してまいります。

